

# がん患者が仕事を継続するための 産業保健師による支援

0904

# はじめに

- 生涯でがんに男女ともに**2人に1人**罹患し、治療技術の進化により「**長く付き合う病気**」になっている
- **3人に1人は就労可能年齢**で罹患し、仕事をもちながら**32.5万人が通院**
- 「現在の日本の社会は、がんの治療や検査のために2週間に一度程度病院に通う必要がある場合、**働きつつけられる環境だと思うか**」という質問に対して、**どちらかといえばそう思わない人とそう思わない人の割合を合わせると64.5%**
- **がん患者**を対象に調査を行った結果、**診断後、30%が退職、4%が依願退職**している

# 文献検討を行った結果

## がん患者の勤労者の離職の理由

- ・ 身体的要因
- ・ 経済的要因
- ・ がんに関連する社会的要因、  
心理的要因

## 産業保健師の役割

- ・ 医療機関との連携において中心的な役割を果たす
- ・ がん患者本人の同意のもと主治医にがん患者の状態を確認し、  
就業上の配慮を検討すること

## 目的

がん患者が、生活の質や生きがいを維持するために、治療を受けながら仕事を継続するための、産業保健師による支援を明らかにする

# 研究方法

## 1. 研究デザイン

質的記述的研究

## 2. 研究対象

がん患者の復職支援の経験を持つ産業保健師1名

## 3. 研究内容

- ・ 企業での産業保健師の仕事内容と役割
- ・ がんの治療を続けながら仕事を継続しているがん患者への支援
- ・ 職場の疾患や治療への理解が深まる支援
- ・ 医療機関との連携
- ・ がん患者が治療を継続しながら仕事を行うための支援で、困難に感じていること

# 結果① 【療養者を会社とつなぐ】

## 《健康状態の把握》

検診結果で知る
人事担当や衛生管理者からの情報提供を受ける
検査データをPDFでもらう
治療スケジュールを本人から聞く
診断書から禁止事項の情報を取る

## 《困っていることを把握する》

本人と面談する
本人とメールでやり取りする

## 《会社の外の機関と連携する》

診断書に治療プランがない場合は、本人に聞いてもらう
診断書に治療プランがない場合は、主治医に電話する
診療状況提供書から検査データや治療状況の情報を得る

## 《復職面談をする》

復職時の診断書でどの病院に入院していたか知る
復職面談の時に、診断書を託される
復職前日に、突然情報をもらう

## 結果② 【本人の働く環境を整える】

### 《本人の不安の軽減》

本人の情報共有の同意の確認

がんをオープンにしたいくない方は、周りの社員と同じように接してもらう

相談できる窓口として、医療職の存在をアピールする

### 《必要な物品を提供する》

吐き気がある方が休めるよう、休養室を用意した

他社員の後ろを通らずトイレに行ける配置にしてもらう

### 《本人の仕事内容を調節する》

普段の業務内容を現場と情報共有する

高所作業に適さない条件を現場につなぐ

高血圧の方は業務時間を制限してもらう

主治医から出る診断書から就業配慮を考える

検診結果の推移を判断して、事業自体をストップする

長時間労働を是正するように指導する

## 結果③ 【職場の社員の働く環境を整える】

### 《職場に情報を提供する》

病状を現場と共有する

復職前に人事を交えて、情報共有してもらう

当面の仕事内容を伝える

がんの術後、薬で副作用が出た時は休ませるよう伝える

同じ業務を行う社員に、治療が必要であることを把握してもらう

同じ業務を行う社員に、通院の頻度を把握してもらう

### 《同じ環境で働く社員の不安を知る》

療養後、職場での急変時の対応への不安を理解する

どこまで任せていいのか、という不安を理解する

どこまで仕事をしていいのか、という不安を理解する

## 考察① 療養者と会社を繋ぎ、本人の働く環境を整える

- ・ 本人の健康状態の情報を収集することにより、体調に合わせた**デスクの配置の工夫**や**休養室の提供**ができる。
- ・ 健康状態の情報を収集し、普段どのような業務を行っているか現場と情報共有するなど本人の職場とも関わることで、本人の**健康状態に合った業務内容に調整**できる。
- ・ 個人情報を大切に扱うことに加え、本人の希望に合わせた支援を行うことで、本人の**不安が軽減**することや、本人と**信頼関係を築く**ことができる。不安の軽減や信頼関係を築くことで、本人の**より必要とする支援**を行うことができる。



## 考察② 社員の働く環境を整える

仕事を継続するがん患者から「申し訳ない」「迷惑をかけている」と発言



本人が働きやすい環境をつくるためには、企業や社員にとっても働きやすい環境をつくる必要がある

- 産業保健師が、診断書から得た情報を、**分かりやすい言葉で実際の業務に合わせた助言**をすることで、がんの知識を持っていない職場の社員が、本人に合わせた**復職支援を行う際の不安を軽減**できている。
- **治療の頻度**や**健康状態**の情報を**共有**することで、がん患者の仕事を代わりに行うことになったときに**同僚からの不満を軽減**することができる。

## 結論 がん患者が治療をうけながら仕事を継続するための産業保健師による支援

### 本人の働く環境を整える支援

- ・ 体調や治療スケジュールに合わせて仕事内容を調節
- ・ 本人の不安を聞く機会をつくる
- ・ がん患者のプライバシーの保護
- ・ 企業や社員、会社の外の機関をつながる

### 同僚の働く環境を整える支援

- ・ 企業や社員が、支援しやすい言葉で声掛け
- ・ 上司や社員の不安を聞く機会をつくり、理解する

がん患者本人に加えて、企業や社員、外部の主治医とも連携し、**がん患者と社員**の身体面・精神面での支援を行っている